



市章

バックは議長席の木目

真庭市議会だより

第53号

平成30年
8月1日発行

まにわ

地域おこし 協力隊

平成21年、総務省は都市部の若者等が過疎地域に移住して、3年以下の期間、地場産品の開発、農林水産業への従事等の地域協力活動を行いながら地域に定住・定着を図る取り組みをする「地域おこし協力隊」を創設しました。

真庭市は平成25年から17人の協力隊員を委嘱しており、現在は9人が各地で活躍しています。総務常任委員会との意見交換会を19ページに掲載しています。下の写真は議長席で記念撮影。

3班 1班
4班 2班

特集：議会報告会
+市民と語る会



大岩 隊員

松尾 元隊員

篠原 隊員

山形 元隊員

海野 元隊員

木藤 隊員

大森 隊員

姜 元隊員

甲田 隊員

吉原 隊員

橋本 隊員

寒川 隊員

岩本 隊員

1 班

班長：初本 勝 入澤廣成
小田康文 福島一則 山本久恵

米来、中和、津田へ

1班 副班長 中尾 哲雄

1班は、5月16、17、18日米来地区、中和地区、津田地区で開催し、延べ53人の参加を頂きました。

地域が抱える問題、市民の言いたいこと、聞きたいことを付せん紙（ポストイット）に書いて討議を行いました。

結果、市政に対して政策提案につなげていけるもの、地域要望を市政に届けるもの、また議員定数については減らさないでほしい。過疎地域の声がますます届かなくなる。議員報酬について、政務活動費の使途の報告について、有害鳥獣対策について、目木構の利用について等多くの意見が出されました。

市民の負託に応えることの重要性を認識する機会として、「議会報告会＋市民と語る会」が有意義

な会であったと思えます。特に津田地区においては、県道上河内江与味線の改良（岡山空港に続く線路）の要望が多かったです。

少し残念なことは議会として言い切れない面があることです。今後市民の負託、信頼に応えるよう努めてまいります。



2 班

班長：柿本健治 柴田正志
庄司史郎 妹尾智之 原 秀樹

天津、美甘、檜邑へ

2班 副班長 福井 荘助

私達2班は天津・美甘・檜邑の3地区を訪問。「ざつくばらん」に語る会をテーマに「議会報告会＋市民と語る会」を3日間に渡り開催しました。市民と語る会では各自に意見を書いてもらい、それを紹介し皆で話し合い、議員が市の政策や自らの想いを述べる等又、女性の発言もあり少子高齢化の進む地域での提言や意見を頂くことができ有意義な意見交換ができたと思います。

○65歳以上の元気なパワーを頂き地域づくりや健康づくりのリーダーやボランティアとしてご協力願ってはどうか○地域づくり事業の補助金の拡充と高齢者の移送サービスについて○空き家問題とその対策について○有害鳥獣駆除防除対策の強化と補助金制度の拡充について○土砂災害特別警戒区域指定：地域をどう守り向き合うか等、多くの貴重なご意見をありがとうございました。私達議員も日々努力を重ね皆様の負託に応えられる様、頑張ろうと心を新たにしています。

アンケートでは「議員との直接のやり取りがとても新鮮」、「また必ず参加したい」との感想も多く書かれており、うれしく思っています。今回の参加は述べ42人でしたが、次回是非、これからの真庭市のためにあなたのご意見をお聞かせください。



真庭市議会報告会

＋市民と語る会

地域の課題をざつくばらん

上水田、遷喬、二川へ

3班 副班長 中元 唯資

私たち3班は、上水田、遷喬及び二川小学校に向き「議会報告会十市民と語る会」を開催し、各常任委員会の報告後、地域の思いや課題を「ざっくばらんに語ろう」をテーマに意見交換を行い、多くの意見を聞くことができました。

- 1、自主防災組織の補助金について
- 2、空き家対策について
- 3、統合後の小学校の跡地利用及び避難所対策について

- 4、通学路の整備、鳥獣害対策について
- 5、県道の改良工事の優先について
- 6、通院のために枝線にも「まにわくん」を週に一回運行してほしい

等多くの意見を頂きました。
3班全員で答えることができる範囲内で回答しましたが、持ち帰り調

3班

班長：古南源二 緒形 尚
河部辰夫 谷本彰良 築澤敏夫

まよとめ

語れましたか？

査して回答する案件もありました。地域課題の中では、各振興局で対応していく課題も多く、議員も職員も外へ出て現地で市民の声を聞き、現場で対応することが一番理解しやすいのではないかと感じました。

開催地域を把握しておき議会側からも提案や質問のやりとりも必要かと思えます。

市民の皆様に対して、「報告」だけで終わらない目に見える「市民と語る会」になるよう努力してまいります。



水田、草加部、湯原へ

4班 副班長 氏平 篤正

北房楽々デイホーム3人、草加部大上公民館21人、湯原木津コミュニティ12人、計36人の方が参加してくださいました。

市民と語る会終了後「ゲーム感覚で丸いシールを貼って帰ってください」とお願いしたところ、大変満足34.5%、やや満足21%、普通34.5%、やや不満10%、不満0%でした。

水田では廃校の跡地利用、樹木の管理などを午後9時まで和気あいあ

4班

班長：竹原茂三 岩本壯八
大月説子 岡崎陽輔 長尾 修

と話しました。人数を多く集めることだけが成果ではないことに気づきました。

草加部では、人口減少に議員はどう立ち向かっていくのか？と問われ「空き家対策として使える土地をつける」「家が建っている所に都市機能を持たす」「市はSDGs（持続可能な開発目標）を推進する」など意見を言わせてもらいました。

湯原では振興局を早く建て替え、地震対策を完璧に！とお願いされ、すでに設計していると答えました。消防分署が福祉センターに入ることには地元は承諾していないと、イヤ、私たち議員は地元の合意は得たと聞いていると、かみ合わない場面もありました。

どこの会場も時間いっぱい、たくさんのお話をいただきました。いい仲間と、いい市民と、いい語る会ができたと思っております。大変ありがとうございました。



議会報告会+市民と語る会
アンケート結果 (168名の内141名が回答)

年齢は	20歳未満	0.0%	時期は	参加し易い	81.6%
	20歳代	0.7%		参加しにくい	9.2%
	30歳代	0.7%		自由意見	1.4%
	40歳代	9.9%	議会報告	分かり易い	58.2%
	50歳代	16.3%		分かりにくい	9.2%
	60歳代	46.1%		どちらとも…	27.7%
	70歳代	20.6%	市民と語る会	分かり易い	64.5%
	80歳以上	5.7%		分かりにくい	5.0%
		どちらとも…		20.6%	
性別は	男性	85.8%		改善すべき点	0.7%
	女性	14.2%	感想は	良かった	50.4%
地区名は	北房	8.5%		普通	29.1%
	落合	17.7%		悪い	2.8%
	久世	39.7%	今後の参加は	参加する	61.7%
	勝山・市外	3.5%		参加しない	2.1%
	美甘	9.2%		どちらとも…	19.9%
	湯原	16.3%	議会だより	ほとんど読む	37.6%
	中和・八束・川上	4.2%		ときどき読む	21.3%
				読む事がある	8.5%
何で知った	議会だより	24.7%	読まない	2.8%	
	チラシ	31.1%	ホームページ	よく見る	7.8%
	告知放送	9.1%		ときどき見る	21.3%
	ホームページ	0.9%		見た事がある	14.2%
	新聞記事	1.8%	見ない	27.0%	
	MIT	5.9%			
	議員・知人から	23.7%			

※100%にならないのは、その他や回答なしがあるため

感想意見(抜粋)

- 農繁期は避けてほしい ● 農閑期の開催を希望します ● 司会さんの話が長すぎる ● 説明が言い訳のようだ ● もう少しスムーズな会議の進め方を望む ● 市議会として、どう行政に意見、政策提言をされているのか住民の要望もよく把握できる場であり勉強になった ● 今回持ち帰った議題の回答をできれば書面できちんと返してください ● 年々内容が充実している気がします ● 議会だよりは読みやすい ● ホームページがあるなんて知らなかった ● 一問一答丁寧に質問に答えられる姿勢はすばらしいと感じました ● 女性を含め若い人の意見が聴ける場や取組があれば、さらに充実した活動になると思います ● 特に政務活動費の年度をさかのぼってのホームページ公開は、全国にも例を見ない取り組みと思います ● 市議会議員さんと参加者との直接のやり取りがとても新鮮でした ● 参加者に一生懸命に説明されている姿に感心しました ● 情報収集の会？コンセプトがわかりづらい ● 中途半端感・地域の声を聞くことは大切な事ですが、特定の意見に振回されないようにして頂きたい ● 参加者が少なく、宣伝が足りなかったのではないかと ● 私たちの地域に来ていただきありがとうございます ● 議員を身近に感じた



ざっくばらんに
語れましたか？



議会報告会+市民と語る会に168人

5月16日、17日、18日の午後7時から9時まで市内12小学校区の公民館やコミュニティハウスで平成30年度の議会報告会+市民と語る会を開催しました。参加者は168人。昨年度より65人の減となりました。内訳は米来23人、天津8人、上水田14人、水田3人、中和5人、美甘22人、遷喬5人、草加部21人、津田25人、樫邑12人、二川18人、湯原12人でした。今年、4班とも各常任委員会報告の資料を配ること、パソコンから絵をスクリーンに映すこと、付せん

紙(ポストイット)を使って話を展開すること、これらを統一して行いました。中央から講師を招いて勉強会を開催しての取り組みです。「皆さんの意見はありませんか？」会場シーン。この状態を「アイス凍る」と言い、それを「ブレイク溶解かす」。2つを合わせて「アイスブレイク」と呼んでいます。会場がシーンとならないように工夫してみました。どうでしたか。趣味を言ったり、地域の話をしたり、問いかけをしたりといろいろ挑戦はしたのですが…。

議会報告会+市民と語る会の実施報告書は8月10日から議会ホームページで公表します。また市役所4階の議会事務局でも閲覧できます。



草加部大上公民館

市民の意見を政策立案や提言に

議会運営委員会 委員長 岡崎陽輔

私たちは、何故、地域報告会、市民と語る会を開催するのでしようか。

真庭市議会基本条例第2条は議会の活動原則をこう定めています。①議案の審議、審査と、独自の政策立案及び提言に取り組む。②市民へ説明責任を果たし、市民参加を推進する。

③市民の多様な意見を的確に把握し、議会活動に反映させる。④公正性・透明性を確保し、情報公開を図り市民が参加しやすい開かれた議会を目指す。一昨年の議会活性化の論議を経て、市民福祉の向上を目指し、市民意見を政策立案や提言に繋げるために、市民とのコミュニケーションを充実させるべく、市民と議員が自由に意見交換し、真庭市の将来を共に語る場として考えています。

全協 まとめ

全協＝議員全員協議会の呼び名

6月7日、今年度の開催について、全員で反省会を開催しました。

開催時期について

○農繁期と重なった地域があったので、考慮すべきではないか。(複数)
6月定例議会終了の時期に実施すべき。(複数)

付せん紙の利用

運営方法について

○付せん紙(ポストイット)の利用で、意見が多くでたので良かった(複数)
○委員会からの報告事項が難しいので、もう少し簡単にすべきだ。(複数)
○会場によっては出席者全員が発言できたので良かった。○付せん紙(ポストイット)を利用したが、うまくいかなかった。ダイレクトな意見交換がうまくいった。

周知・参加について

○若者、女性の参加が少ない。どう増やすか検討すべきだ。(複数)
○参加者が少ない会場もあった。もう一度立ち止まって考える



岡崎陽輔議員

○市民から関心がないのではないか。人数が減ってきているのではないか。考える時期だ。○市民への周知の方法をもっと検討していくべきである。

テーマについて

○課題・テーマを絞りこんで行く必要があるのではないか。○地域の人にテーマを決めてもらったり、事前アンケートでテーマを検討すべきではないか。○若者・女性の関心あるテーマ設定が必要だ。

開催地域について

○今回、小さい学区にも入ることが出来たのは良かった。○地域担当を決めて取り組んだほうがよいのではないか。○もつと小さい単位でもよいのではないか。

今後は議運に…

その他

○市民からの間に答えられないこともあった。もつと知識が必要と感ぜた。○議員自身が地域のことを知らない。○今回は、政策提案に結びつくような意見はなかった。○今後につ

いては議会運営委員会に任ず。○意見を聞くことが重要で、コミュニケーションが大切。

来年は6月開催

6月7日の全員協議会を受けて、議会運営委員会は、来年度の議会報告会・市民と語る会の方向性について論議をしました。先ず、開催時期については、市民の声を、その年の政策形成サイクルに反映させることなどを勘案して、6月定例議会直後の、農繁期に掛からない時期に開催することに決定しました。

開催対象地区については、現在小学校区単位での開催を原則にしていきますが、学校統合の進捗や、大規模学区への対応を検討した結果、学区に限定しないで、地域自主組織単位などの自治コミュニティ単位での開催を基本にして、地域バランスを考へながら、実施計画を策定する予定です。

議運 まとめ

6月定例会

会期6月7日~6月26日

平成30年度6月補正予算

6,485万円を可決しました。

	6月補正額	補正後予算額	対前年比
一般会計	3,972万円	290億4,972万円	11.7%減
特別会計	0万円	130億6,387万円	7.9%減
公営企業会計	2,513万円	66億5,103万円	9.6%減

【主な内容】 今回の一般質問は11人。

- ・ 専決2件を原案承認 議案9件を可決
- ・ 請願1件、陳情1件を採択

(単位:万円、千円を四捨五入)

補正後予算額

487億6,463万円

対前年比

56億9,045万円(10.4%)減

繰越明許費約8億円
繰越明許費とは、年度内に支出を終わらないと見込まれるものを、あらかじめ議会の議決を得ておいて、翌年度に繰越して支出できるようにする制度です。
平成29年度一般会計は認定ごとも園整備事業、災害復旧事業など5億4,819万円を平成30年度に繰越しました。
水道事業会計は2,550万円、下水道事業会計は2億750万円

繰越明許費約8億円

単位:万円

会計名	6月補正額	補正後予算額
一般会計	3,972	2,904,972
国民健康保険特別会計	0	494,019
後期高齢者医療特別会計	0	77,909
介護保険特別会計	0	602,005
介護保険特別会計 (介護サービス事業勘定)	0	5,029
簡易水道事業特別会計	0	100,359
浄化槽事業特別会計	0	9,285
津黒高原観光事業特別会計	0	2,866
グリエル管谷事業特別会計	0	875
温泉事業特別会計	0	14,040
特別会計合計	0	1,306,387
農業共済事業特別会計	0	30,089
水道事業会計	0	117,858
下水道事業会計	0	338,747
国民健康保険湯原温泉病院 事業会計	2,513	178,410
公営企業会計合計	2,513	665,103
合計	6,485	4,876,463

千円を四捨五入

**ジビエカー導入費用など
3,972万円を増額**
一般会計6月補正予算
歳出の主なものは真庭産ジビエ工肉の流通を促進するため、解体処理が可能なジビエカーと保冷車の購入代2,905万円、個人番号カード交付関連に438万円、生活保護事務データシステムの改修に227万円、旧遷喬尋常小学校(国の重要文化財)活用検討費に232万円などを計上しています。

国保税の見直し

(いずれも工事関係)を平成30年度へ繰越しました。
国民健康保険税の基礎課税額に係る課税限度額が54万円から58万円に引き上げられました。
また、世帯の軽減判定所得の算定において被保険者の数に乗すべき金額が、5割軽減対象世帯は27万円から27万5千円に、2割軽減対象世帯は49万円から50万円に引き上げられました。

ジビエカーと保冷車

美作地区(美作市・真庭市・奈義町)が「ジビエ利用モデル地区(全国で17地区)」に選定され、真庭市ではジビエカーが導入されることになりました。

ジビエビジネスによる地域活性化、商品開発や食品加工技術の向上などを目的に全国で2例目となるジビエカー(移動式解体処理車)が導入されます。

ジビエカーと軽四保冷車、合わせて2,750万円です。

Q ジビエカーの役割は?

A シカの捕獲現場にかけつけ、保冷車で運



国内1例目のジビエカー 高知県梶原町 出典:全国農業新聞

主な議決内容 働く車4台

搬し、ジビエカーと合流して解体等を行い、それを市内の地域振興会社や美作市の獣肉処理施設へ納入する。安全で良質なジビエが得られるとともに、捕獲者による処理加工施設への搬送の手間を省力化する。

猟友会の皆さんの協力と連携が必須の事業です。

まにわくん[ノンステップバス]

真庭市コミュニティバス運行車両整備計画に基づき、真庭市として初のノンステップバスを導入します。56人乗りの中型バスで、8月31日を納期としています。

この車両更新により、バリアフリー対応車両の率は57%から61.9%に増加します。

Q 初めて、ノンステップバスの導入となるが、どのような効果があるのか。

A ノンステップバス導入により、物理的なバリアフリーが向上し、障がいのある人にとっても利便性が増すと考えている。

Q 今後の導入計画は、どのように考えているか。

A 今後も、バリアフリーの観点から、計画的に導入を検討していく。

Q どのバスがどこにいるというような表示を検討すべきでは。

A 今年度、バスロケーションシステムを導入準備

中で、Webで確認できることで利便性の向上につながる。

来年度以降、スマートフォン以外でも確認できる方法を検討している。表示についても検討していく。

Q 車いす対応のバス停が少ないが、増やしていく予定はあるのか。できる限り整備してほしい。

A 安全に利用していただくためには条件があり、課題としていく。スペースが確保できない場所

小形ロータリ除雪車

真庭市道路除雪基本計画に基づき、小形ロータリ除雪車1台を安心安全な冬季交通を目

的として導入します。最大除雪幅は1.5メートル、高さは1メートルです。蒜山川上地区の市道堂の前かじや線等の路線に配備される計画です。納期は平成31年3月を予定しています。

Q 除雪車の総台数は変わらぬのか。

A 新規で購入する。これにより市所有の除雪車の台数は従来の35台から36台になる。



市道を除雪する除雪車(同型車)



蒜山、久世間を運行するコミュニティバスまにわくん

陳情

教職員の
定数改善を

主な 議決 内容

地方財政の
充実・強化を

請願

「地方財政の充実・強化を
求める意見書」を内閣総理
大臣、財務大臣など7人に
提出しました。

2019年度の政府予
算、地方財政計画の検討に
当たっては、国民生活を犠
牲にすることなく、歳入・歳
出を的確に見積もり、人的
サービスとしての社会保障
予算の充実と地方財政の確
立を求めるものです。

傍聴される方は4階へ



6月定例会の様子

真庭市議会の本会議・委員会を間
近で傍聴してみませんか。議会だよ
りの紙面では、お伝えできない議員
の生の活動が伝わってきます。
傍聴を希望される方は、議会開会
中に真庭市役所4階にお越しくださ
い。議場の入り口で、住所、氏名、年
齢をご記入いただければ、簡単に傍
聴席へお入りいただけます。傍聴席は
30席用意しています。
また、本会議の様子は真庭いきい
きテレビで生中継されています。議
員の発言の際、傍聴席が生中継に映
り込む場合がありますが、ご了承ください。

政務活動費を公表

政務活動費は、地方自治法に基づき「真庭市議会
政務活動費交付条例」で定められた議員の調査研

究その他の活動に費やすため必要な経費として交
付されます。月額3万円を年度当初に一括交付し、
残余がある場合は返還することになっています。

真庭市議会では1円以上、全ての領収書の提出を
求めており、岡山県の先駆けとして、平成25年分から
領収書等を真庭市ホームページに公開しています。

議員氏名	交付額	精算額	返還額	議員氏名	交付額	精算額	返還額
入澤 廣成	330,000	114,880	215,120	妹尾 智之	330,000	246,005	83,995
岩本 壯八	330,000	14,232	315,768	竹原 茂三	330,000	129,018	200,982
氏平 篤正	330,000	309,175	20,825	谷本 彰良	330,000	154,119	175,881
大月 説子	330,000	209,122	120,878	築澤 敏夫	330,000	165,526	164,474
岡崎 陽輔	330,000	0	330,000	長尾 修	330,000	7,700	322,300
緒形 尚	330,000	220,056	109,944	中尾 哲雄	330,000	200,444	129,556
小田 康文	330,000	181,341	148,659	中元 唯資	330,000	154,220	175,780
柿本 健治	330,000	330,000	0	初本 勝	330,000	198,395	131,605
河部 辰夫	330,000	240,196	89,804	原 秀樹	330,000	282,956	47,044
古南 源二	330,000	330,000	0	福井 莊助	330,000	330,000	0
柴田 正志	330,000	302,364	27,636	福島 一則	330,000	307,933	22,067
庄司 史郎	330,000	115,555	214,445	山本 久恵	330,000	72,623	257,377
				合 計	7,920,000	4,615,860	3,304,140

平成 29 年度の政務活動費の交付状況 (円、五十音順)

総務常任委員会

本委員会では、5月9日に地域おこし協力隊との意見交換会、3月8日、14日及び4月17日、21日に委員会を開催し、各担当部局の出席を求め、調査研究を行いました。

■違う視点から見た真庭は

真庭市地域おこし協力隊との連携を深め、今後の市政や議会活動に反映させていくため、意見交換会を開催しました。

10人の隊員と真庭に定住されている元隊員3人の計13人と、協力隊としての活動やテーマ、住んで分かった違う視点から見た真庭など、多くの意見を交わしました。

移住や関係人口構築に向けてどうすべきか、委員会として研究を続けていきます。

《総合政策部》

■SDGs 未来杜市の推進

「持続可能な開発目標（SDGs）」は、経済、社会、環境などめぐる広範な課題に統合的に取り組むものであり、国では、自治体におけるSDGsの達成に向けた取組を公募し、全国で30程

度選定される「SDGs未来都市」に応募しました。本市では、バイオマス発電、CLTをはじめとした木材活用、液肥の活用など既にSDGsの理念に沿った独自の取組を進めており、今後「SDGs未来都市」の取り組みをさらに推進していくことです。

Q 「SDGs未来都市」に選定されることとなるのか。

A 国は、自治体によるSDGsの達成に向けた優れた取組を提案する約30自治体を「SDGs未来都市」として選定。また、特に先導的な取組10自治体を「自治体SDGsモデル事業」として選定。自治体のSDGs推進のための取組に対し、国の支援が受けられる。更にモデル事業に選定されると、上限4,000万円の補助が受けられる。

■地域認定空き家制度

自治会等が地域にある空き家の所有者等と協力し、調査・交渉したうえで、登録申請し、空き家利用者と賃貸、若しくは売買の契約が成立すれば、自治会等に活動奨励金（1件につき3万円）を交付する。今回、農業委員会と連携し、農地取得の要

件を1aに緩和して、空き家や耕作放棄地の解消に向けて取り組みを進めていくとのこと。この制度を市

Q 自治会等とは、どのような組織を示すのか。この制度を市

- 成夫 正子 良樹 助恵
- 廣敏 篤説 彰秀 莊久
- 澤澤 平月本 井本
- 入築 氏大 谷原 福山
- 委員長 員 員 員 員
- 委員 委 委 委 委 委



天の川こども園でのバイオマス電力供給開始調印式

民に対し、どう説明しているのか。また、実施はいつ頃からか。
A 対象となる組織は自治会をはじめ、地域自主組織、地域づくり委員会など。個人は対象とならない。制度の説明は地域づくり委員会で行う。6月頃より実施する。

《総務部》

■真庭バイオマス発電所からの電力供給を受ける施設を拡大

真庭バイオエネルギー株式会社との電気供給契約ですが、3月26日天の川こども園において、真庭バイオマス発電所からの電力供給を受ける施設を拡大するため、バイオエネルギー株式会社と電力供給に関する調印を行ったと説明がありました。

平成30年3月までは、バイオマス発電所からの供給施設は、本庁とエスパスセンターの2施設でしたが、4月から市立の小中学校、こども園、消防本部及び上下水道施設の45施設を加えて、47施設へと大幅拡大をしました。契約の期間は、平成30年4月1日〜平成31年3月31日までの1年間、契約電力は高圧低圧合わせて2,752kW、使用電力量は高圧低圧合わせて6,719.8MWhで、電気料金は従前の契約と比較して、約400万円の削減効果を見込んでいるとのこと。

文教厚生常任委員会

本委員会では、3月14日、19日、23日、4月23日及び5月21日に委員会を開催し、各担当部局の出席を求め、調査研究を行いました。

《健康福祉部》

■真庭の子育て環境のあり方を検討
3月14日の委員会では、久世地域を主とした幼稚園・保育園の整備計画の見直しを行うために、平成29年9月定例会において検討委員会設置に係る補正予算を計上されたものが不執行となったことについての説明を求めました。

副市長から、予算執行を行わなかった理由として、保育政策に係る国の情勢が大きく変わろうとしている段階であり、その見極めを行う必要があること、また、職員の勉強会等を開催し、執行部内で時間をかけた議論を行った上で、検討委員会を立ち上げたいと考えたこと等の説明がありました。

委員からは、補正予算以降の議論の経過や真庭市における公的保育のあり方、官民含めた幅広い検討の必

要性等多くの意見が出されました。

Q 今後の議論は、久世地域の園整備計画の見直しを検討するものなのか、全体としての見直しを議論するものなのか。

A まずは、真庭市全体の子育てに関する基本方針のような位置づけになるものから議論したい。

■新しくなった「百楽苑」を視察
3月19日の委員会では、「養護老人ホーム百楽苑」の現地視察を行いました。

「養護老人ホーム百楽苑」は、平成29年4月1日から「真庭市養護老人ホームささぶき苑」の事業を引き継ぎ、「地域福祉センター百楽苑」を改築し、「デイサービス・外来入浴施設を併設した施設として、社会福祉法人郁青会により運営されています。ささぶき苑から引き継がれた事業の状況や、「元気はつらつデイサービス」「外来入浴百楽の湯」等の地域に開かれた取組について説明を受け、改築された施設内を見学しました。

■地域包括ケアシステムの深化・推進を目指す
4月23日の委員会では、今年度から従来の在宅介護支援センターを廃

治尚輔二之三勝則
健 陽源智茂 一
本形崎南尾原本島
柿緒岡古妹竹初福
委員長 委員 委員 委員
委員長 委員 委員 委員

止し、新たに6つの日常生活圏域ごとに「生活支援コーディネーター」を配置する事業について説明を受けました。「生活支援コーディネーター」は、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らしていけるよう、地域の生活課題の把握や関係団体との連絡等を行い、生活支援や介護予防の体制づくりを進めるものです。

事業の推進にあたっては、制度の周知や地域の協力が欠かせないことから、議会からも市民の皆さんへお伝えしたいと考え、5月に開催した「議会報告会+市民と語る会」での委員会からの報告テーマに取り上げることとしました。

《生活環境部》

■森林を活用した地域活性化に期待
4月23日の委員会では、「株式会社冒険の森」が、中和地内の市有林の一部を借り受け、森林を活用した自然共生型のアウトドアパーク事業を実施するにあたり、真庭市と協定書の調印を行ったことこの報告がありま

した。7月21日のオープンを目指し、今ある自然を生かした整備が進められており、民間活力を活用した環境保全や森林を通じた交流による地域活性化が期待されています。

■候補地選定の進捗状況を報告

5月21日の委員会では、生ごみ等資源化施設地域提案選定委員会の委員の選任や、提案に係る協議を進めるための要綱について報告がありました。委員会は3〜4回程度の開催を予定しており、当初予定していた平成30年夏頃の候補地決定が、委員の日程調整等により、秋以降にずれ込む可能性があるとのことでした。



養護老人ホーム百楽苑 現地視察の様子

産業建設常任委員会

本委員会では、5月11日に林業・木材関係団体との意見交換会、3月15日、4月18日及び5月23日に委員会を開催し、各担当部局の出席を求め、調査研究を行いました。

■真庭の林業の課題は

持続可能な森林づくりの推進に向けて、現状や課題を共有するため、林業・木材関係団体と意見交換会を開催しました。

真庭森林組合、真庭地区木材組合及び真庭木材事業協同組合の代表者ら5人が参加し、真庭の森林づくり、林業・木材産業の担い手育成、森林環境税と新たな森林管理システムの3テーマについて意見を交わしました。

真庭の林業を守るために、皆伐と再造林を進めるべきとの方向で一致し、山主の負担がないような方法が可能か、森林環境譲与税により実施できるのか。また、森林GISやドローン、レーザー測量を使つての山林の把握が必要で、民間事業者が利用できるような方策が可能か、など意見が出されました。

事業者だけではなく山林所有者の

意見も聴きながら、今後、どの立ち位置で林業政策に取り組むべきか、委員会としての方向性をさらに探っていきます。

《産業観光部》

■農村振興室を新設

農業振興課から、新たに設置された農村振興室の業務内容について報告がありました。農村地域の活力を維持し、持続的な地域経営ができるよう、鳥獣害対策や中山間地域対策等の農業農村政策を総合的に企画し、推進していくとのことでした。

Q 鳥獣害対策は大きなテーマだが、ジビエカー導入とどう関係があるのか。

A 鳥獣害対策（捕獲・電気柵設置など）の基本の部分と、総合的な鳥獣害対策として地域を巻き込んだモデル事業のジビエカー導入がある。この事業は連携が大前提で、美作市・奈義町と真庭市で連携して行う。

《建設部》

■宮地の農業集落排水修繕へ

下水道課から北房・宮地地区に

夫郎 八文志 修雄 資
辰史 壯康正 哲唯
部司 本田 尾尾 元
河庄 岩小 柴長 中
委員長 員 員 員 員
委員 委員 委員 委員
委員 委員 委員 委員



「ウィキペディアin勝山」での町歩き調査の様子 平成29年12月17日

おける農業集落排水の管路調査結果について報告がありました。日当たり処理量250m³のところ、平成26年頃から降雨時には倍の500m³を超える流入量となっていることから、全延長11・8kmの約4分の1に

あたる3,072mで管路の調査をした結果、不良箇所が47か所ありました。部分的な修繕では効果が望めない状況であることから、平成31年度から国庫事業により計画的に修繕する検討を始めたとのことでした。

《勝山振興局》

■ウィキペディアで情報発信

勝山カレッジプロジェクトについて、高校、大学、地域が連携して勝山地域の歴史、文化、伝統、観光、地域づくりなどの情報を収集し、整理、発信まで行う勝山ペディアの実施と地域活動やイベントなどと教育機関等をマッチングする仕組みづくりを行うとの報告がありました。

Q 勝山ペディアは勝山だけで行う事業なのか。ウィキペディアへの掲載は社会的信用性の面から、公がお金をかけて載せる媒体としては疑問に感じるが、どう考えているか。

A 平成30年度は勝山だけで行うが、今後は広がっていく可能性はある。ウィキペディアは、掲載ルールがあり、執筆者は載らないが、出典を全て掲載することになっている。ウィキペディアに掲載することで、例えば勝山町並み保存地区と検索すれば、検索結果が上位に表示されるので、情報発信としてはよい手段であると考えている。



真庭市議会

6月定例会

一

質

問

一般質問の記事は質問した議員本人の原稿に基づいています。

岩本壯八



遠隔医療の普及を!

岡山県が発表した岡山県保健医療計画によると、平成29年4月1日現在の真庭地域内の病床数672床を平成52年には必要病床を426床とする計画を立てている。慢性期患者を中心に在宅医療、看護へという方向だ。一方、団塊世代が全て75歳となる平成37年以降の急激な高齢化により医療需要は更に高まる。開業医自身の高齢化も懸念される。公共交通が十分でない、医療機関から遠いなど高齢者が医療機関に出か



遠隔医療を受ける男性 イメージ

けての診療は身体的にも大きな負担。医師自身も訪問医療は時間的制約の中で大きな負担。そうした中で、ICT機器（スマートフォン、タブレット）の発展により診療が容易になり、平成27年8月に厚生労働省が一般診療でも遠隔診療を認めた。また、本年4月には初めて健康保険の適用対象

になり、医療機関での普及が期待される。医師、患者双方の負担軽減や良質な医療を受けるには、遠隔診療の普及支援が必要だ。

答 太田市長

ICT活用の取り組みが始まっており、今後も広がっていく、また必要において広げていく必要がある。

祖父母手帳の作成・配布を

問

子育て世帯は核家族の割合が高いが、同居・別居を問わず、子育て論の違いから祖父母世代との間にずれが生じることもある反面、孫・親・祖父母のメリットも大きい。祖父母世代の孫育て応援のた

め、今の子育て情報を掲載した「祖父母手帳」の作成・配布を検討してはどうか。祖父母と親の上手な付き合い方、子育て新常識、子どもの事故の注意点、具体的な遊び方、お出かけスポットなどを盛り込んだもの。

答 太田市長

県がおかやま子育て応援Book「グランパ・グランマ編」を作っている。この冊子を配布している。

大月説子



問

保育コンシェルジュを配置した成果を

真庭市では、平成29年から未来を担う人応援基金を活

用して、「寄り添う保育サービス推進事業」に取り組んでいるが、保育コンシェルジュを配置した成果をお伺いする。

答 太田市長

保育コンシェルジュを配置したことで116件の相談があり、相談後のアフターフォローやお世話ができるようになった。保育を希望する市民の方と園とのパイプ役が保育コンシェルジュであり、待機児童をゼロにすることを目的としている。

答 上島健康福祉部長

この事業は、国の寄り添う保育サービス推進事業という補助制度を活用している。今年度は保育コンシェルジュを2名に増やし今後もこの事業を継続するつもりである。

第3次真庭市障がい者計画の推進方針

問

平成30年4月に策定された第3次真庭市障がい者計画の推進方針を伺う。

答 太田市長

課題は、岡山県障害者就業・生活支援センターが真庭地域にない事である。真庭に設置すべきと引き続き強力に働きかけていく。また、現在行っている

トータルライフ支援プロジェクト事業などを行政と関係機関とが重なるような、漏れが無いような支援体制を整えて行く。

答 上島健康福祉部長

今後の相談支援体制の充実については、▼地域生活支援センターとサポートステーションコスモスの専門性を高める。▼保健所・医療機関・福祉関係機関・市の情報共有とネットワーク体制の構築を図る。▼相談員が情報を提供することで各種制度が活用できるようにする。▼自立支援協議会の



コスモスの園で、入所者が得意な作業に取り組んでいる様子

活用の4点に取り組んで、地域で安心して暮らせる総合的な環境整備に努めていく。さらに、児童発達支援センターを、平成32年度をめどに整備していきたいと考えている。



問 庄司史郎

公文書保管の書庫の整備を早急に

公文書は、市民の知る権利の保障や歴史的財産、また知的財産として非常に大切なものである。分散管理されている公文書を可能な限り集中管理できるように、公文書保管の書庫の整備を進める必要があると考えるが、市長の見解を伺う。

答 太田市長

基本は、公文書というのは作った途端、市民の財産で、知的財産だと、そしてまた将来の真庭市にとつて歴史的なものになるということで、市民が主体的に利用できる、適正な管理、保存を行う必要があると思っている。今の段階で新しい施設を造るということは、市民の方々からも支持を得られないと思う。ただ、10か所で保管しているというのも多過ぎるので、公文書館的なというか、何か所かにまと



公文書を保管している旧北房公民館

答 太田市長

た削減するのではなく元に戻す、あるいは少しでも増額することはできないのか市長の考えを伺う。

めて、情報公開にも耐えられるようにしていきたい。

地域づくり事業補助金の見直しを

問

地域づくり事業補助金については、平成32年度まで削減していくことになっている。根拠はどのようなものがあって削減しているのか。ま

いう単位か。住民の方と正面からそういう議論をしていただきたい。その中で本当に足りないというのなら、それに重点をおいて出したら良いと思っている。貴重な財源をより効果的なところに使う。そういうことを議会も市民も、そしてそれを行政はしっかり受けとめてやらなければならぬと思っている。

妹尾智之



人工内耳体外機購入・イヤモールド作成に対する助成

人工内耳の埋め込み手術は健康保険の適用対象になっているが、電池の交換等は保険適用外のため、全て装用者の自己負担となる。補聴器は補装具として障害者総合支援法により公費の補助があるが、人工内耳は対象になっていない。聴覚障害者を救う大きな前進を具体的な施策を持って行っていただきたい。同補助事業の一日も早い創設を要望する。人工内耳装用者への助成の仕組みづくりについて市長の考えを伺う。

答 太田市長

成長の発達段階にある子どもは耳かけ部とイヤモールドで機器を安定させる機能がある。指定専門機関等の意見を聞いた上で決定し支給する。過去2件補助実績がある。補助対象にしていき、原則の例外としていく。

健康カレンダーの導入

問

健康カレンダーは月ごと12カ月あり、1つの月のある日に健康診査や検診や講座と実施場所が記載されていて、カレンダーの次のページには妊娠から出産まで、医療機関一覧マップ、がん検診等のページ、バランスのよい食事のページ等があり工夫されている。この健康カレンダー、印刷物として各戸に配布され、ホームページやスマートフォンでも閲覧できる。本市も、ホームページを活用して健康カレンダーを導入してはどうか。健康寿命の延伸に向けた健康施策について、市長の考えを伺う。

答 太田市長

ご提案のカレンダー形式にして健康関係の情報を伝えることは非常にいい提案だと思う。ご提案も含めて、健康だけに限らず、暮らしの情報・コミュニケーション活動・市の必要な情報を紙ベースのもので振興局単位で作る。ホームページでもカレンダー形式のものを載せていくことで、必要な情報を市民の皆さんが簡単に知ることができると。

問 谷本彰良



小・中学校のエアコン工事の進め方

昨年12月定例会の一般質問で、市内の全小・中学校普通教室175室と特別教室53室の計228室へのエアコンの設置について市長からの答弁があり、今年度から5年間をかけて、全中学校、南部、中部、北部の小学校と順次設計・施工を行って行くとのことだが、遷喬小学校はオープンスペースを採用した学校である。



遷喬小学校のオープンスペース

る会」が教育長も出席され開催された。築30年になる遷喬小の教育と長寿命化について検討を進め、今後の教育環境について方向性を示すとのことであった。これからどんな子どもを育てていくのか、それにはどんな学校が必要なのかしっかりと議論して、大人になっても真庭で暮らしたいと思ってくれるような教育の環境を提供していただきたい。

答 三ツ教育長

オープンスペースの特徴は、教室とオープンスペースを隔てる壁のない広い空間にある。壁が無いことで開放的ではあるが、学年毎に3つの教室とオープンスペースが一体となった非常に広い空間は、空調での温度管理が難しく、エネルギー効率の悪い構造となっている。この遷喬小学校のエアコン設置について、設計、施工をどのように進めて行くのかを尋ねる。先日、「今後の遷喬を考え、今後の遷喬小学校を考える会」での意見等も伺いながら、将来を見通した教育のあり方を考えていきたい。



美甘振興局発行の行事予定表



三浦邸木御殿

三浦邸の関係だが、周辺部の景観向上ということを考えている。テレビドラマの関係もあつたので、一部の山については、所有者の厚意をいただく中で購入することで、国道から建物、それから周辺の桜が見えるように伐採を行った。ところが、

答 太田市長

三浦邸の景観だが、周辺部の景観向上ということを考えている。テレビドラマの関係もあつたので、一部の山については、所有者の厚意をいただく中で購入することで、国道から建物、それから周辺の桜が見えるように伐採を行った。ところが、

問 初本 勝



勝山領主三浦氏遺構の三浦邸周辺整備

平成元年2月に旧勝山町に寄贈された椎ノ木御殿三浦邸が、最近その建物が見えなくなつたことで市長以下担当課の人の努力により伐採をして下さつた。それの一部は見えるようになった

が、もう少し見えづらいつころがあるので、現在残つている杉、ヒノキ等伐採をしていただき、できれば土地の取得まで考えていただきたい。伐採後何年かするとまた伐採の許可をいただくことが難しくなつてくると思うので、できればお願いしたい。伐採後は樹木の低い花木等の植栽をする必要があると思う。そこも考えていただきたい。ヒノキ等を伐採することが市民ボランティアはできないので土地の取得を考えていただき、今後長い間椎ノ木御殿が守れるようにしたいと思う。市長の考えを伺う。

問

古南源 二



木造構造の農業用ビニールハウスの開発を

下から建物全体が見えるようにはなつていない。その下にある木が伸びて景観の支障になつている。所有者の理解をいただいているので建物が下からもつと見えるように伐採をしていきたい。取得の話があつたが、まずこの三浦邸を今後どうしていくということ、全体を考えると次に取得をしていくことには進まないと思つている。管理形態を見直して少なくともランニングコストが出ることとをしないと長続きはしないと思つている。

岩手県農業研究センター南部研究室で、杉の間伐材を使った農業用ビニールハウスを視察した。このハウスは一般的な柱や間柱、胴縁などで作られており、屋根の耐荷重は一般的なパイプハウスより高く最大荷重は120kg/m²、風速50mにも耐える。長野県飯



木造構造農業用ビニールハウス

山市では、長野県産檜の構造用合板を骨組みに使つていた。ビニールは、2重張りです。冬季も加温なしで室温15度を保つ事が出来、イチゴが収穫できると聞いた。産官学金共同で、地元木材を使い農業に活かしている良い事例である。真庭市では液肥の利用促進が求められており、ハウス内で液肥を散布する場合、他の肥料より水分の蒸発は多く、尿素の成分は鉄を錆びさせるので木造の方が有利であると考えられる。パイプハウスでは、お金は地域外に流れていく、木材を使うことにより地域内の回る経済になる。木材のまちに相応しい木造構

答 太田市長

造農業用ビニールハウスの開発はどうか。

木造構造の農業用ビニールハウスは積雪への耐久性が強い、年間を通して農作物の生産が可能で、需要に応じた農作物の生産拡大が期待できる面を持つている。木材は弱いというふうに使われ、全国的にも事例が少なく実証段階であり、本格的な農業利用の普及に至つていないという課題がある。真庭市が今すぐ実証実験も含めて、開発、導入するのは、真庭市の力量から言つて難しい。今までの発想だけで農業をやつていゝのでは無理だと思ふ。真庭市としても県がしないから真庭もしないと、いうことは絶対しない。県の力を引き出しながら、精力的に農業関係者、林業等色々な方々と共に先進的農業を行つていゝ。農業も含め地域経済の循環が進むような取り組みをしていゝ。県がこういうことには取り組まなければだめなんだと県に強く訴えかけたい。

原 秀樹



今後の介護予防事業の充実策と介護保険料の推移は

報道によると平成37年には、基準保険料が月8,000円を超えるとのことである。後期高齢者窓口負担も2割に引き上げ保険料は全国平均月6,500円程度と推計されている。介護が必要となる方は、全国で141万人増え、770万人と推計されている。3年前の推計より減少傾向にあり、介護予防の取組が進んだ結果との分析である。市では、平成37年には高齢化率が、40%を超える。急激な生産人口の減少の中、財源不足・担い手不足が生じ、大きな社会現象が起こるのではと不安を感じる。地域包括ケアシステム構築のため、総合事業の実施や生活支援コーディネーターを配置した新たな取組体制づくりに期待する。介護予防事業を徹底して全市隅々まで構築し、実践することが最も重要であり、官民協働の体制づ



げんき ☆ 輝きエクササイズ

くりが急務である。在宅介護の増加が見込まれており、今以上に老々介護が課題となると懸念する。市長の見解を尋ねる。①介護予防事業に今後どのような姿勢で取組まれるか。②介護予防事業に今以上予算を投入する考えはあるか。③平成37年以降の市の介護保険料の推計値はどうか。

答 太田市長

①「げんき☆輝きエクササイズ」に取組み、地域の集いの場づくりや「きらりシルバー事業」を活用して、高齢者が有する経験や知識、技術を生かして、積極的な社会参加を促し社会的な役割や自分の幸福実現が出来る仕組みを作って支援していく。②

単費をどこにどうつぎ込むのか、議会や市民の皆さんと一緒に十分に議論し、有効な対策にお金の使い方をしていかなければならないと思っ

答 上島健康福祉部長

限られた予算の中で最大限独自性を発揮して、効果的・効率的な事業を実施するべきと考えている。

柴田 正志



問

将来の真庭市のまちづくり

コンパクトシティと小さな拠点とのバランスは、居住誘導は

答 太田市長

真庭市ではコンパクトシティというような規模のものはどこにも存在しない。ただ313号線沿いあるいは181号線沿いに一定の機能が集まるまちづくりをしないと周辺に住んでいる方も生活が成

り立たない。一方で、小さな拠点というか、日々の生活はそこで間に合うようにする整備も必要で、うまく組み合わせネットワークできるような真庭市全体を作っていくことが必要である。

居住地の誘導については個人の自由な意思を尊重することはまず必要である。持続可能なまちづくりを進める上で、多くの市民が安心して暮らせるための居住地の誘導も検討する必要があると思う。

住民自治に向かっての地域づくりを

問

①住民自治を進めるには地域が自ら使途を決定し活用できる自由枠一括交付金制度の導入が必要であると考える。②地域自らが考え行動することで大きな交付金につながる可能性のある地域指定のふるさと納税制度は現在27団体が登録をされている。昨年実績で300万円を超える地域もあれば全くない地域もある。団体登録をしただけでは有効に機能せず、どう取り

組んでいくかがポイントとなる。この制度が市内各地で有効に活用できるように市として何らかの働きかけが必要であると考える。

答 太田市長

①今何でも使える交付金というところまでするのは難しい。大事な話だと思っので研究を進める。

答 新田総合政策部長

②美甘などの有効な事例を他の地域自主組織にも伝える場を作っていくたい。各地域づくり委員会でもふるさと応援交付金の活用を説明させていただく。報告会を検討していきたい。



地域での環境整備活動

柿本健治



消費増税への対応

来年10月の消費税10%増税後の消費落ち込み対策として、「骨太方針2018」に消費喚起策を盛り込むとされ、原案を公表した。平成31、32年の当初予算に財政出動を計上するしており、子育て支援策の幼児教育・保育の無償化時期を半年間程度前倒しを検討すると言われている。真庭市も、園整備計画の見直しに取組んでいるが、保育士等の確保策など態勢作りが急がれるが見解を伺う。消費不況を招きかねず、地域経済への悪影響を最小限に食い止めるため、独自の消費刺激策が必要と考えるが所見を伺う。

答 太田市長

6月6日全国市長会で、幼児教育・保育の無償化は全て国の責任において実施する事などの決議をしている。今年度から新たに保育補助員制度を実施。国レベルの制度設計を注視しながら企業内

保育所に地域の子どもさんも受け入れることも含め新たな民間事業者の参入も視野に検討をしていきたい。

消費税の引き上げに伴う刺激策は、国が打つ対策を現象面の対策に終わらせることなく長期に続く視点からやっていきたい。

原子力災害対策

問

真庭市は、島根原発から70キロ圏内にあり、万一島根原発で福島第一原発同様の事故が発生した場合、気象条件によつては放射能汚染が心配される。中国電力は5月22日、第



島根原発 提供:中国電力

3号機、137万kwの稼働に向けて、事前了解を島根県及び松江市に申入れている。真庭市は、UPZ区域内(30km圏内)の安来市より避難者の受け入れが想定されているが、安全確保対策をどの様に確立しようとしているのか伺う。

答 太田市長

自然再生エネルギーが活用できる所は、消費電力を少なくしながら、一方で人間が制御出来ない様なものは廃止していくべき。国の政策を根本的に変えるところから無いといけないと思つている。

岡崎陽輔



所有者不明土地の実態把握はできているのか

相続未登記などで所有者が分からなくなっている可能性がある土地の面積が、九州より広い約410万haに達すると推計結果が昨年公表された。なぜ、こうした所有者不明土地が生まれるのか、対策

を求めたい。真庭市の実態的把握はできているのか。

答 太田市長

真庭市で把握できるのは、固定資産税台帳で一定把握する以外ない。29年度で、固定資産税納税通知書2万7,980件だが、あて先不明により調査を要するものが、131件で全体の0.5%。面積割合157haである。真庭市全体の0.2%となつている。原因背景は、都市への人口移動や、米価や木材価格の低迷による農地や林地の資産価値の低下による所有意思の希薄化などである。増加傾向である。

LGBTなどの性的マイノリティーの権利保障を

問

LGBTは、自分の性に違和感のある方を表す言葉である。国連では、性的指向や性自認を理由とする暴力や差別に対する懸念を表明する決議が採択され、日本も賛成し、性的マイノリティーへの偏見と差別解消に取り組むことを国として確認している。性的

少数者の声に寄り添い、自尊感情を育み、ケアしていくこと、生活上と権利の拡大が求められる。



多目的トイレのサイン

答 太田市長

人間の安全保障あるいは多様な価値観を認め合う共生社会の実現の観点から、克服していくべきだ。人権教育啓発推進指針でも、解決すべき重要な問題と位置づけている。相談は生活総合相談窓口で受け付ける。また、市の施設である多目的トイレなど、どなたでも利用できることを伝えるようなサインも設置していきたい。

答 三ツ教育長

理解、学習指導法、環境づくり、相談体制を整えていく観点での研修を重視したい。



被害を受けた国道313号線 下方地内

真庭市に初の 大雨特別警報(土砂災害)発表

7月6日に真庭市で大雨特別警報(土砂災害)が発表されました。発表を受け、真庭市では真庭市災害対策本部を設置し、議会でも真庭市議会災害対策委員会を設置し、各議員が居住地域において情報収集、相談、助言等を行いました。

回答のあった
1,318議会のうち

- ・情報共有・・・479位
- ・住民参加・・・53位
- ・機能強化・・・196位

総合順位 156位

議会改革度調査 真庭市156位に

早稲田大学マネジメント研究会が2017年度「議会改革度調査」ランキングTOP300を公開。真庭市議会は政策討論会や市民と語る会の開催などの議会活性化15策を設け推進したことが評価され、571位から156位へ大幅に順位を上げました。県内では井原市議会94位、倉敷市議会170位、総社市議会266位と4つの自治体がTOP300に入っています。



新規就職者激励会を開催

5月30日、真庭市・真庭商工会共催による平成30年度新規就職者激励会が、市内25事業所から82名の新規就職者が参加し、市役所2階大会議室において開催されました。新規就職者の皆さんの今後の活躍を期待します。昨年度は、22事業所から93名参加でした。

写真は市役所会議室にて行われた激励会の様子。



あいさつする長尾修議長

長尾議長が全国の副委員長に

5月30日、東京国際フォーラムで開催された「全国市議会議長会総会」で長尾修議長が産業経済委員会の副委員長に就任しました。この日は全国814の市・区議会が出席しており、安倍晋三総理大臣、野田聖子総務大臣ら来賓から祝辞がありました。

長尾議長は地域の代表として地域がかかえる課題を国の会議で提案することとなります。



ホタル保護を訴えた子どもたちのミュージカル

全国ほたるサミット開催

6月16日(土)北房文化センターで、滋賀県米原市・愛知県阿久比町・和歌山県紀の川市・山口県下関市・福岡県北九州市の5市町と真庭市を含め6市町の参加。ほたるの保護や環境保全の取り組みや課題を共有する「2018ほたるサミットin真庭」が、発足30周年の節目に開催されました。

来年度は、北九州市で開催される予定です。



山あいには打ち上げられた美甘の花火

**8月に行われる
真庭市内の花火大会**

- 8月8日(水)湯原はんざき祭り
- 8月13日(月)中和ふるさと祭り
- 8月14日(火)久世リバーサイドフェスティバル
- 8月15日(水)蒜山花火大会

GIKAI NO UGOKI

議会

の

動き

5月 6月 7月編



話し合いのデザインを考える

5月14日、市役所4階で龍谷大学教授・土山希美枝氏を昨年に引き続き講師に迎え「政策議会とはなにか・市民との話し合いのデザインを考える」と題した研修会を行いました。

午前は、政策議会を考えると題した講演で、午後は、実りある議会報告会のための対話の姿勢とツールを考えると題したワークショップ形式での研修をしました。午前の講演は、執行部20人も聴講しました。写真はワークショップの様子。

[土山希美枝氏 略歴]

平成12年法政大学大学院社会科学部政治学専攻博士課程修了。政治学博士。龍谷大学法学部助教授、同准教授を経て平成27年4月から龍谷大学政策学部教授。議会の専門誌である「地方議会人」に平成28年5月号より1年間にわたり「質問力で高める議員力・議会力」と題した記事を連載。



総務委が協力隊員と意見交換

6月9日、市役所4階会議室で総務常任委員8人と地域おこし協力隊員10人、元隊員3人と意見交換会を開催しました。政策提案ができるものを伺うため、協力隊員から活動の内容や要望などの話をお聞きしました。真庭市に足り無いものは？の問いに「親が郷土を誉めない」。市長だったら何をする？に「ミュージアム・美術館を造る」「世界の人材が来るシステムを作る」といった答がありました。

真庭市の地域おこし協力隊員は優秀で東京へ活動発表に行ったりしています。卒業した5人の隊員は真庭市に定住しており、その内3人が起業されています。協力隊員の給料は月額20万円と決まっております。国の特別交付税措置対象事業です。都会の視点を真庭市に注入し、真庭市を盛り上げていただきたいと願います。写真は発言する甲田隊員(右)。



産業建設常任委員会が 5月の意見交換会 林業関係者と意見交換会

産業建設常任委員会では今後の森林づくり、林業政策の方向性を探っていくことを目的として、5月11日と6月5日、持続可能な森林づくりの推進に向けて現状や課題を共有するため、林業関係者と意見交換を行いました。いただいたご意見をもとに、今後さらに政策提言に向けて取り組んでいきます。

GIKAI NO UGOKI

議会の動き

特別バージョン

図書館へ
そうだ
行こう



オープンした真庭市立中央図書館



勝山こども園児がテープカット

祝 オープン 市立中央図書館

旧勝山町庁舎を改修していた工事（耐震を含む）が完了し、7月3日、真庭市立中央図書館がオープンしました。設計を含む工事費総額は8億1,300万円（備品は除く）で、真庭産の木材をふんだんに使った建物となっています。収蔵可能冊数は14万8千冊（現7万8千冊）、開館は午前9時から午後7時までで、休館日は月曜日です。2階を子ども向けフロアとし、3階に学習室と映像シアターがあるのが特徴です。
〒717-0013 真庭市勝山53番地1



9人のスタッフがお待ちしています



児童開架閲覧ベンチ 2階



本の香りいっぱい 1階の本棚



畳のキッズスペース 親子で読書 2階



3階の個別、グループ別学習室



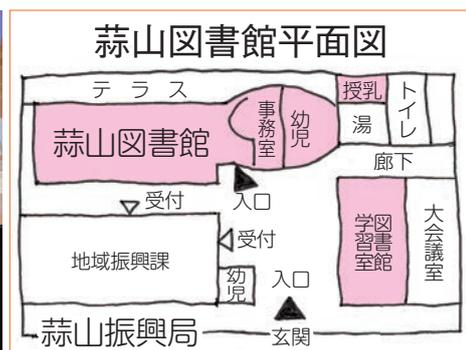
本棚のあるらせん階段



2階のキッズテラス 耐震もしっかり



映像シアター、開館日にトークセッション



2,632万円で改修工事中、完成は10月31日

9月定例会は4日から

9月4日(火)本会議(開会、提案説明)

11日(火)本会議(一般質問)

12日(水)本会議(一般質問)

13日(木)本会議(一般質問、議案質疑、委員会付託)

14日(金)常任委員会

18日(火)常任委員会

19日(水)常任委員会

20日(木)決算審査特別委員会

21日(金)決算審査特別委員会

25日(水)予算審査特別委員会

28日(金)本会議(委員長報告、採決、閉会)



まにぞう

9月定例会の請願・陳情は8月31日(金)まで

9月定例会の請願と陳情の受付は、8月31日(金)までです。

12月定例会の締切は11月30日(金)、来年3月定例会の締切は1月31日(木)、来年6月定例会の締切は5月31日(金)までです。様式などの問い合わせは議会事務局までお願いします。ただし、土日祝祭日等の市役所の閉庁日は除きます。

市政などについての意見や要望があるときは、誰でも請願や陳情を議会に提出することができます。

請願は、議員の紹介を必要とするのに対し、陳情の場合は、議員の紹介は必要ありません。

議会クイズ

鳥獣被害対策の一環として、全国で2例目に導入する車は？
“○○○カー”

正解者の中から2人に「湯原温泉おかみちゃんの豆カレー」5袋セットが当たります。はがきに答えとあなたの住所・氏名を24ページ緑欄に記載している真庭市議会までお送りください。当選者の発表は商品の発送をもって代えさせていただきます。締切は8月31日(金)です。前号の応募総数は27通で、正解者27人でした。ご応募ありがとうございました。



ふるさと1枚

6・26露天風呂の日に626個の風船をとばす

議会まもろう話

市役所4階をご案内

市役所4階は、真庭市議会のフロアとなっています。エレベーターを降りるとつきあたりに議会事務局があり、5人の職員が働いています。右側は議場で私たちがとつとつとも神聖な場所です。左に監査事務局とトイレ。事務局の奥が、応接室、議長室、給湯室と並びます。議場の横の通路を奥に進むと男女のロッカールームがあり、左側は大小の委員会室、右側は会派室です。一番奥が議会図書室となっています。議場横の通路からは313号線沿いの旭川と川南一帯が一望でき、今年トンネル桜の咲く頃に一般開放し多くの市民が訪れました。議場は常に開放しており、事務局職員が親切に案内してくれます。

議会開催中は受付で名前等を書くこと議場に入れます。傍聴席は30席で黒色です。大声を出すと出されますのでご注意ください。

議会広報編集特別委員会

委員長	緒形 尚
委員	氏平 篤
委員	古南 二
委員	柴田 正
委員	庄司 志
委員	原秀 樹
事務局	南俊 樹



ジャバラニ (ホワイトライオン) 榊勝昭 日本画

温かみのある行政を



森谷弘明さん
旦土

議員さんは、よく勉強されていて市民の意見を聞く、その姿勢は良いと感じました。

津田地区は陸の孤島になり易いので、道路の整備等、気にしておいて欲しい。災害時に避難する公共施設もなくなる……自分たちも負担するので温かみのある行政を望みます。

事前準備をお願い



稲田文夫さん
黒田

事前に、テーマ等を教えてもらったのもっと多くの意見が出せると思う。事前準備をお願いしたい。介護予防・日常生活支援総合事業があるが、地域で取り組んでいくためには、当初に市の支援も必要だと思う。地域の体制づくりにどう繋げるか難しい課題である。

地域の課題を共有



遠藤正明さん
種

議員さんと話ができる機会が増えることは良いことで、具体的な地域の課題が、共有できたことは非常に良かった。みんな地域の不安を感じて生活している。意見を言ったり聞いたりすることで政策や施策につなげ、不安が解消される機会になれば良いと思っている。

草加部は災害に弱い



馬場紀彦さん
草加部

いろんな町内会のいろんな人の意見が聞けて大変良かったです。草加部は橋が流れると孤立するし、避難所も少なく狭く、避難経路も悪く、旭川の堤防も低く災害に弱い地域です。設備の整った災害ステーションを市内各地に造ることを提案しました。

報告会に参加して

インタビュー

報告会に参加して

「市民と議会のいい関係づくり」のため、がんばりますので、よろしくお願ひいたします。
議会広報
編集特別委員会

議会 広報



睡蓮 大本家康



大黒様 Masa



写真の撮れる美術館 ke



ポピー畑 ⑩



麗新社募集中 yuki

市民 の 広場

ここは市民みんなで作るページです
楽しい気持ちでご参加ください



頑張る落合中学校吹奏楽部 落中応援団



清流神庭川 渡辺孝純



のぼり棒にチャレンジ 米来幼



仲良し みなとみゆ byみか



日本代表 りほちゃん りさ



親子 T.O



JR姫新線 菅野恒夫



半分、黄色い。 つばめ



秋の旭川(勝山) 秀子



きなこ 北



議長席に座った みらいとこころ photoゆうか

BO 集

絵画、写真などを募集しています。住所、氏名、電話番号を書いてください。ペンネームを希望される場合も連絡先と氏名が書いてあることが必要です。

「投稿! 言いたい」は200字以内にまとめ、ご応募ください。文責として氏名を掲載します。誹謗中傷等の内容や紙面の都合上、掲載できない場合があります。

応募先 真庭市議会

宛先:24ページの緑帯欄に記載しています

真庭市議会だより 第53号

真庭市

議会講演会

ぜひ
お越しください

平成30年

10月18日 木

時間 午後6時30分 開会

場所 久世エスパスランド

エスパスホール

入場無料



旧遷喬小(左)久世エスパスセンター(右)



ひろいよしのり 広井良典 プロフィール

1961年岡山市生まれ。東京大学教養学部卒業、同大学院修士課程終了後、厚生省勤務(1986-96年)をへて1996年より千葉大学法経学部助教授、2003年同教授。この間、マサチューセッツ工科大学(MIT)客員研究員。2016年4月より現職。専攻は公共政策及び科学哲学。社会保障、医療、福祉、都市・地域等に関する政策研究から、ケア、死生観等に関する哲学的考察まで幅広い活動を行っている。

演題 人口減少社会を希望に—— グローバル化の先のローカル化

日本は2011年から本格的な人口減少社会に入った。人口減少社会についてはマイナス面が言われることが多いが、むしろそこには様々なプラスの可能性が宿っているのではないかと、人口増加期においてはすべてが東京などの大都市に向かって人が流れていったが、人口減少社会とは、これまでの動きとは逆の流れが展開していく時代である。
真庭市が国連のSDGs未来都市に認定されたことも踏まえ、そうした新たな時代の展望について幅広く考えてみたい。

— 京都大学 —
こころの未来研究センター教授

広井良典

主な著書:「日本の社会保障」(岩波新書、1999年)でエコノミスト賞、「コミュニティを問いなおす」(ちくま新書、2009年)で大仏次郎論壇賞受賞。ほかの著書に「定常型社会」、「ポスト資本主義」(以下岩波新書)、「持続可能な医療」(ちくま新書)など多数。

平成30年8月1日発行
発行 真庭市久世2927-2 真庭市議会
TEL 0867-42-1272 FAX 0867-42-1420

URL <http://www.city.manitwa.lg.jp/> (真庭市ホームページ)
Eメール gikai@city.manitwa.lg.jp

バック写真は旭川の堤防

エス ディ ジーズ

SDGs未来都市選定

[持続可能な開発目標]